

探せば見つかる

校長 金子 智

まだ校庭は一面の銀世界です。休み時間元気に雪遊びする子どもの姿が見られます。

- 2月8日（月）は、この季節にはめずらしい抜けるような青空の一日でした。私は出張で学校を留守にしておりました。

この日の職員が交代で書く日誌に、

【今日は、一日中お日様が出ていてよい天気だった。昼休みには3年生男子が力を合わせて大きな雪だるまを作っていた。その雪だるまが、夕方夕日に照らされてグラウンドの真ん中でオレンジ色に光っていた。少しの間、見とれてしまった。

3年生男子の作品になんとか癒やされた。】

とありました。

私はこれを読んで、昼休み雪原のグラウンドに響く子どもの歓声が聞こえるようでした。雪だるまづくりに興じる子どもたちの姿が見えるようでした。夕方ひっそりと静まったグラウンドに、子どもの足跡がたくさん残っていて、その足跡のまんに大きな雪だるまが立っているのが見えるようでした。夕日に染まってオレンジ色に光っている様子も見えるようでした。職員の「なんとか癒やされた」という気持ちがわかるような気がしました。「ああ、いい風景だなあ」と思いました。

「いいもの」を見つけ、「いいもの」を感じる。何とステキなことでしょう。いいものに出会えば心豊かになります。心に向けて探せば見つかります。これからもそんな心ぐせをつけていきたいと思えます。職員日誌から気づかされたことでした。

- 胎内市主催のスキー教室にボランティア参加したときのことです。1年生のAさん、スキーは初めてです。滑るスキーに思うように立つことができません。他の子どもたちとみるみる差がついていきました。するとインストラクターの方が他の子を私に任せAさんにつきっきりになりました。

「ほーら、スキーをハの字に開けたぞ。」「ほーら前を向けたぞ。」とできたところを見つけては褒め、「いいぞ、いいぞ。」と励ましては滑らせました。くじけそうになると、

「大丈夫、大丈夫、もう一度やってみましょう。ここまでできたんだから、必ずできるから。」と励まします。決してあきらめさせません。インストラクターの方は午前中いっぱいAさんにかかりっきりでした。

午後みんなでリフトに乗って、林間コースに挑戦しました。Aさんももちろん一緒です。

静かな林の中を滑りました。聞こえるのはスキーが雪面をとらえる「シャーッ、シャーッ」という音だけです。爽快でした。滑り下りるとAさんもインストラクターの方も満面の笑みでした。

「やったねえ、できたねえ、楽しかったかい。」

「うん、スキー楽しかったよ。」

と話していました。

できたところを探して見つけては褒め、探して見つけては褒めた成果です。

何によらず「探せば見つかる」のだと思います。

ネコヤナギの穂が銀色にふくらんできました。